

第6期（平成30－令和元年度）

境港市みんなでまちづくり推進会議 提言書

「U・Iターンしたくなる境港へ」

仮

令和2年3月

第6期境港市みんなでまちづくり推進会議委員

< 目 次 >

1. はじめに	1
2. 境港市の人口の現状と課題	2
3. 活動報告	3
4. 境港市への提言	5
5. 会議開催経過	7
6. 委員等名簿	8
附則Ⅰ まちづくりのためのワークショップマニュアル	
1. ワークショップとは	9
2. ワールドカフェについて	9
2. 1 用意するもの	10
2. 2 事務局の役割	10
2. 3 司会者の役割	11
2. 4 参加者の役割	11
2. 5 ホストの役割	11
3. ワールドカフェの流れ	12
4. 模擬審査会について	13

附則Ⅱ (島根大学生からの提言が入る予定です)

1. はじめに

境港市みんなでまちづくり推進会議は、平成 19 年に「境港市みんなでまちづくり条例」の実効性を確保するために、促進・参加・協働・支援の実施状況の評価や、協働事業の提案に関する審査などを行う機関として設置されました。

第 5 期（平成 28－29 年度）においては、12 人の委員により、市民活動推進補助金の審査、参加と協働の実施状況の評価、「若い世代の（行政）参加」について、協議を行い、事業報告書としてまとめ、市長に提出しました。

第 6 期（平成 30－令和元年度）においては、当初より、市長へ提言ないしは報告を行うことを目標に、「U・I ターンをしたくなるまちづくり」を今期の取組テーマに掲げ、第 5 期に続き、島根大学法文学部教授 毎熊 浩一氏（※）をアドバイザーに迎え、地元高校生や島根大学生、境港市への移住者とワークショップを行うなど協議を重ね、本提言書の作成に至りました。

本提言書の内容は、精緻なデータ分析に基づく、あるいは、全ての意見を代表したものではないものの、声をあげる機会の少ない若い世代や県外から移住されてきた方々からの境港市をより良いまちにしたいという生の声が反映されたものとなっております。

附則には、ワークショップに参加した島根大学法文学部の学生による提言書を添付しております。

市におかれては、この提言書に込められた想いを受け止め、今後の市政運営に生かしていただくことを期待しております。

最後に、本提言書を作成するにあたり、計 3 回のワークショップを実施しました。この経験を生かし、市民活動団体等がワークショップを運営する際の「ワークショップマニュアル」を作成しました。こちらもご活用していただくようお願いします。

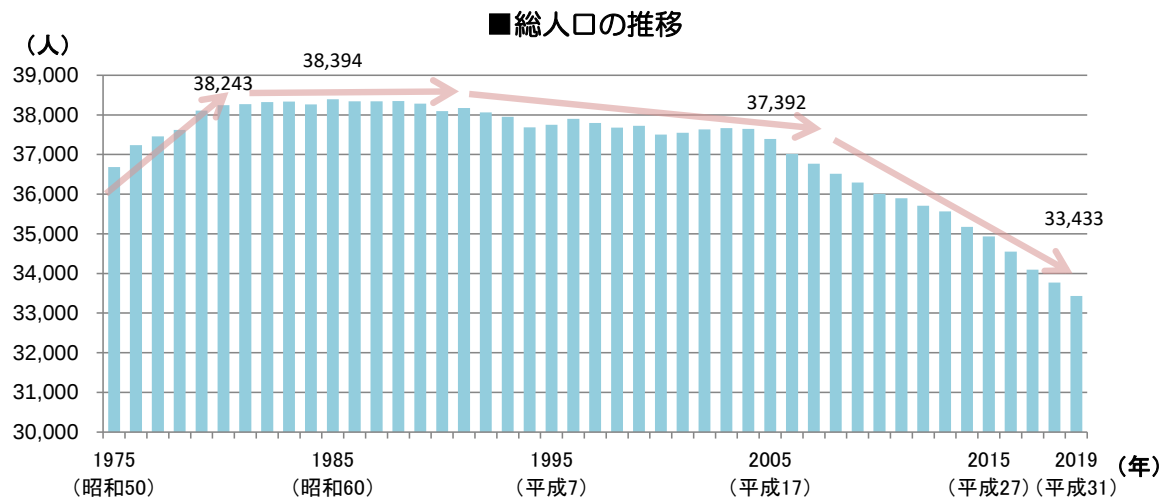
第 6 期みんなでまちづくり推進会議委員 一同

※毎熊 浩一 氏

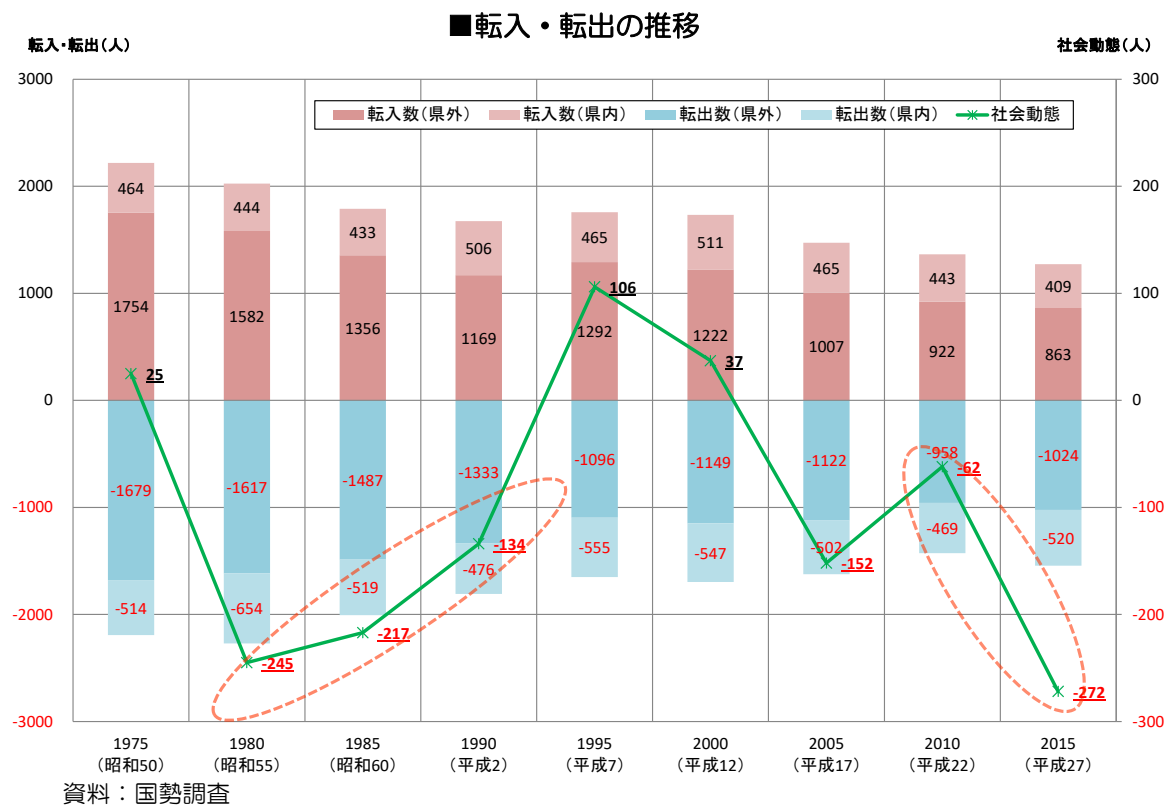
島根大学法文学部教授。行政学を専門とし、参加と協働に関する実践的研究等を行っている。境港市においては、「境港市みんなでまちづくり条例」の策定を行った「境港市協働のまちづくり推進懇話会」や「境港市議会基本条例市民検討会議」のアドバイザーを務められ、また、本推進会議では第 3 期からアドバイザーを務めていただいている。

2. 境港市の人口の現状と課題

境港市の人口は、平成 31 年 3 月時点で 33,433 人となっています。経年での変化を見ると、昭和 60 年の 38,394 人をピークに減少傾向に転じ、平成 17 年以降は減少幅が大きくなっています。



境港市の転入・転出の推移をみると、平成 17 年以降は社会減の状態が続き、平成 27 年には 272 人の社会減となっています。



3. 活動報告

これらの現況を踏まえ、私たちは、今期の取組テーマを「U・Iターンしたくなるまちづくり」に定め、以下のワークショップを実施しました。

① 高校生と大学生とのワークショップ（ワールドカフェ）

平成30年11月12日に鳥取県立境高等学校・鳥取県立境港総合技術高等学校・国立大学法人島根大学法文学部行政学ゼミから学生を招き、ワールドカフェを実施しました。テーマは以下のとおりです。

テーマ
「境港の好きなところ・嫌いなところは」
「あなたは境港に残りたいか（いずれは戻りたいか）」その理由は
「あなたの将来の夢は・就きたい職業は」
「境港（出身地）について地域・学校・家庭で学んだことは」
「境港に残る人・戻る人・住んでくれる人を増やすためのアイデアは」
「大学生と話そう」



② 高校生と大学生のワークショップ（模擬審査会「こんなイケン？」＋ワールドカフェ）

令和元年11月11日に鳥取県立境高等学校・鳥取県立境港総合技術高等学校・国立大学法人島根大学法文学部行政学ゼミから学生を招き、模擬審査会を実施しました。前回の①では、主に、高校生から意見を聞くということがメインでしたが、こちらでは、委員・大学生からプレゼンを行い、「こういう意見もあったけど、こういう見方はどう？」と大人からの異見を出し、高校生が採点・評価しました。そのあと、ワールドカフェを実施し、意見交換を行いました。模擬審査会・ワールドカフェのテーマは以下のとおりです。

テーマ	①での高校生意見
楽しくない	遊ぶところがない／ラウンドワン（スポーツができる施設）がない／映画館がない／水族館がない／パチンコ屋が多い（子どもが遊べるところは？）／服屋がない
暮らしづらい	交通の便が悪い／電車・バスの本数が少ない／電車を待つ場所がない／買い物難民／境港は住むというより観光地
誇れない	アピールポイントが魚と妖怪しかない／米子に負ける
働けない	働ける場所がない／境港では夢が叶わない



③ 移住者と大学生とのワークショップ（「Youは何しに境港へ？」）

令和元年12月7日に境港市へIターン・Uターンされてきた方を対象に広く参加を呼びかけ、ワールドカフェを実施しました。テーマは以下のとおりです。

テーマ
①私は何しに境港へ？
②境港市の良いところ・悪いところ
③境港市をより良いまちにするには （U・Iターン進めるには？）



4. 境港市への提言

以上のことから、私たちはワークショップの参加者の意見をもとに、以下のとおり提言します。

(1) 今ある資源の活用と“ここにしかないもの”の創造

鬼太郎や魚など境港には良いものがたくさんあります。行政は、これらの今ある資源をより活用し、情報発信することはもちろん、ここに住んでいる市民一人一人が境港の良いところを知って、積極的に境港のアピールをすることが必要と考えます。特に、今ある資源の一つでもある「自衛隊」の活用が不十分であると言え、定期的に新しい人材が入ってくる自衛隊員に向けて、より積極的なPRが必要かと思います。

そのほかにも、教育など全国的に知れ渡る「境港といえばこれ」というものを新たに作り、全国にPRしていくことも必要と考えます。

ワークショップで出た意見：

- ・鬼太郎・魚・海など情報を常に発信し続けることだと思います。
- ・「マグロ大食い・カニ大食い選手権」等、県外者を呼べる大きなイベントを開催してほしい。
- ・港をもっと楽しく（横浜みたいに）。
- ・自衛隊を対象とした店がない。基地の周辺が寂しい。
- ・自衛隊相手の観光産業！！独身隊員は外でお金を使いたい！！
- ・“ここにしかないもの”をこだわって創造すること。
- ・境港ではなければならない看板となるものがいる。例えば、教育の充実など。
- ・自然環境の良さを生かすビジネス。林間学校的合宿。

(2) 移住者専門のコーディネーターや移住者を中心とした組織の設立

移住希望者が移住を検討するにあたり、不安な点の一つとして移住をしたい地域にうまく溶け込めるかどうかということがあります。移住者専門のコーディネーターや移住者による組織があれば、仕事や住まいのフォローが受けられる、また、地域で仲間ができるという安心感があります。

さらに、行政と市民が協働でまちづくりを進めていくにあたっても、別の地域を見てきた移住者の意見は重要であるため、組織化することで、今後、まちづくりプロジェクトの立ち上げも期待できます。

ワークショップで出た意見：

- ・移住を決めるには何かしらの縁が必要で、家・仕事・友人などが確保できると思ってもらえるようなPRが必要だと思います。
- ・U・Iターンしやすいように新卒以外の仕事。後継ぎ問題もあるのでうまくコーディネートできると良い。
- ・新しく入って来られた方でも生活しやすくなるようなネットワークや支援制度の充実が必要だと感じました。
- ・NPOなどの団体がなく、移住・定住が促進されていない。活動団体が少ない。
- ・U・Iターン者がもっとアピールする。
- ・（ワークショップに参加して）移住者同士の横のつながりができたことが大きな収穫でした。
- ・境港に住んでいる人々が楽しく住めるようなまちづくりを考える必要があると思います。いろんな世代・移住者の方も含めた意見交換の場は重要だと思うので、さまざまな経験を持っている方々との交流を通して、まちづくりに生かしていくことが必要だと感じました。

（３）交通網の整備と不便さを感じさせない工夫

高校生とのワールドカフェで特に多かった意見が「交通の便が悪い」というものでした。大人になれば車を運転できる人が多く、不便はないかもしれませんが、観光客や移住者がみな運転できる人ばかりではありません。夜間の利用についても、はまる一歩バス・タクシーが共に走っていないという意見があり、課題であると言えます。

また、「娯楽がない」という意見も多かったことから、学生が集まって電車の待ち時間を過ごせる場所があると良いと考えます。

ワークショップで出た意見：

- ・電車・バスの本数が少ない。
- ・もう少し遠くに車を持っていなくても、簡単に行ける手段がほしい。
- ・シェアリングがあったら便利。
- ・お酒を飲んで帰るのに不便（はまる一歩バス 19 時で終わり？）
- ・タクシーがない（夜飲んだ後に帰れない！自動運転に期待）。
- ・JR・はまる一歩バス・飛行機（ANA）の接続が良くない。観光客が便利に使えるようにすれば利用者は増える。
- ・電車を待つ場所がない。
- ・遊ぶところがない

5. 会議開催経過

年度	回数	日時	内容	参加者
平成 30 年度	第 1 回	平成 30 年 3 月 28 日	委員による今期の取組 テーマについての協議	委員 12 名
	第 2 回	平成 30 年 5 月 9 日	委員による今期の取組 テーマについての協議	委員 8 名
	第 3 回	平成 30 年 7 月 5 日	委員による今期の取組 テーマについてのワー クショップ	委員 12 名、 每熊アドバイザー
	第 4 回	平成 30 年 8 月 7 日	委員による今期の取組 テーマについての協議	委員 10 名
	第 5 回	平成 30 年 11 月 12 日	高校生と大学生とのワ ークショップ	委員 9 名、 市内高校生 18 名、 島根大学生 11 名、 每熊アドバイザー
令和 元年度	第 1 回	平成 31 年 3 月 28 日	委員による今期の取組 テーマについての協議	委員 10 名
	第 2 回	令和元年 5 月 9 日	委員による今期の取組 テーマについての協議	委員 9 名
	第 3 回	令和元年 8 月 23 日	委員による今期の取組 テーマについての協議	委員 9 名、 每熊アドバイザー
	第 4 回	令和元年 11 月 11 日	高校生と大学生とのワ ークショップ	委員 9 名、 市内高校生 21 名、 島根大学生 10 名 每熊アドバイザー
	第 5 回	令和元年 12 月 7 日	移住者と大学生とのワ ークショップ	委員 10 名、 移住者 9 名、 島根大学生 7 名、 每熊アドバイザー
	第 6 回	令和 2 年 3 月 12 日	委員による今期の取組 テーマについての協議 (事業報告書の作成)	委員〇〇名

6. 委員等名簿

・委員

氏名	市民活動団体名等	備考
足立 勲	公募	
糸川 諒	国立大学法人島根大学法文学部	
岩本 和貴	公募	
遠藤 恵子	境港更生保護女性会	
遠藤 緑	境港市まちづくり若者委員会	
門脇 京子	境港中国文化研究会	副会長
徳尾 勝	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	
松田 真二	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	
松本 信子	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	
松本 幸永	さかいみなとウィンドアンサンブル	会長
渡部 敏樹	自然農法園 さかい夢の浜	
渡邊 冬樹	境港青年会議所	

(敬称略、50音順)

・アドバイザー

毎熊 浩一	島根大学法文学部教授
-------	------------

・事務局

境港市総務部地域振興課企画係

まちづくりのためのワークショップマニュアル

1. ワークショップとは

ワークショップとは、参加者が自発的に作業や発言をおこなえる環境が整った場において、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役を中心に、参加者全員が体験するものとして運営されるものです。

まちづくり分野においては、行政などが地域にかかわるさまざまな立場の人々と一緒に、地域社会の課題を解決するための意見交換をしたり、計画を策定するためのアイデア出しや市民の意見のすくい上げに使うことが多くあります。

一般的に、班に分かれて、1班4～5人程度でいくつかのテーマについて話し合い、最終的に、班ごとに発表するというスタイルが多いです。班には一人ホストがおり、進行役として会話を回していきます。

一口にワークショップと言っても、色々な種類のワークショップがありますが、ここでは、第6期みんなでまちづくり推進会議で実施した「ワールドカフェ」と「模擬審査会」について説明したいと思います。

2. ワールドカフェについて

ワールドカフェとは、カフェテーブルでゆったりした気分で話し合うことで、生き生きした意見交換や新たな発想の誕生が期待できるという考え方に基づいた話し合いの手法です。BGMをかけ、お茶・お菓子を飲食しながら、参加者が班に分かれ、意見を模造紙に記入・もしくは付箋に書いて貼るとというのが一般的な形式です。

一般的なワークショップでは、最終的に発表を行いますが、ワールドカフェにおいては、発表は行いません。ワールドカフェはいかに意見を出していくかということに特化しており、特定の意見を取捨選択したり、結論を出すということはしません。また、「対話」をすることはあっても、「議論」をするということもしないのが鉄則です。

全てのテーブルで同じテーマについて話すやり方もありますが、第6期みんなでまちづくり推進会議では、すべての班で別のテーマを設け、時間ごとにシャッフルするやり方で実施しました。より多くの方と意見交換し、組み合わせにより様々な意見を出そうというねらいです。

発表としない代わりに、最後には、みんなで各テーブルを回って別の班で出た意見についても話し合います。こうすることで、結論は出さないまでも、どういう意見が多いのかも分かります。

2. 1 用意するもの

模造紙、付箋、マジック・ボールペン、飲み物、お菓子、菓子皿、BGM、ゴミ箱（各テーブル用）、ゴミ袋（全体用）、アンケート・アンケート回収箱、カメラ（撮影用）、参加者名簿、その他必要に応じて、配布資料、名札、PC、マイク、アンプ等々…



2. 2 事務局の役割

事務局は1. 2をきちんと用意することはもちろん、事前の広報や準備など、当日以外にもやることがあります。特に、人数の管理は参加人数によって、班の数も変わってきますので、十分にしておく必要があります。できれば、参加人数が決まった時点で班分けをし、ホストも決めてしまいましょう。ホストはワークショップの経験者であることが望ましいです。その場で決めようとする時間がかかる場合がありますので、あまりお勧めしません。

会場によっては、飲食や音楽を流すのが禁止な場所もありますので、その点も事前に確認しておきましょう。

当日、ワールドカフェをする際に、突然、「このテーマでどうぞ!」としても会話は弾みませんので、事前に資料を作って配布したり、ワールドカフェをする直前に事前説明（話題提供）をすると良いです。

ワールドカフェが始まれば、時間の管理と写真を撮ることは忘れないようにしましょう。時間が押してしまうと、席替えができなくなり、すべての人がすべてのテーマについて話すことができないということにもなりかねません。また、せっかく色々な方に集まってもらっているのに、写真を撮り、後日、出た意見と当日の様子をまとめてホームページ等に公開することが望ましいです。アンケートも取っておくと、参加者の意見が改めて確認できますし、次回開催の要望や、次回への改善点などを知ることができます。

2. 3 司会者の役割

司会者の役割として重要なことの一つが「アイスブレイク」です。「アイスブレイク」とは直訳すると“氷を壊す”という意味ですが、参加者の緊張をほぐすために、少し変わった自己紹介などを行うことです。第6期みんなでまちづくり推進会議では、以下のことをしました。

- ・ 気になる有名人を書かせる

テーブルに名前シールを置いておき、そこに「気になる有名人を書いてください」と指示。司会進行の際に、「それが今日のあなたの名前です」と言い、自己紹介の際には、なぜ気になるのかを発表させる。

- ・ 円になり、順番に自己紹介

自分のことと今年気になったニュースを自己紹介し、紹介する際には、「〇〇が気になる△△さんの次の…」と順番に紹介していく。

そのほか、司会者はワールドカフェ中には、色んな班を回り、話を聞いたり、意見交換に参加したりして、班に会話を弾ませるのに協力します。

2. 4 参加者の役割

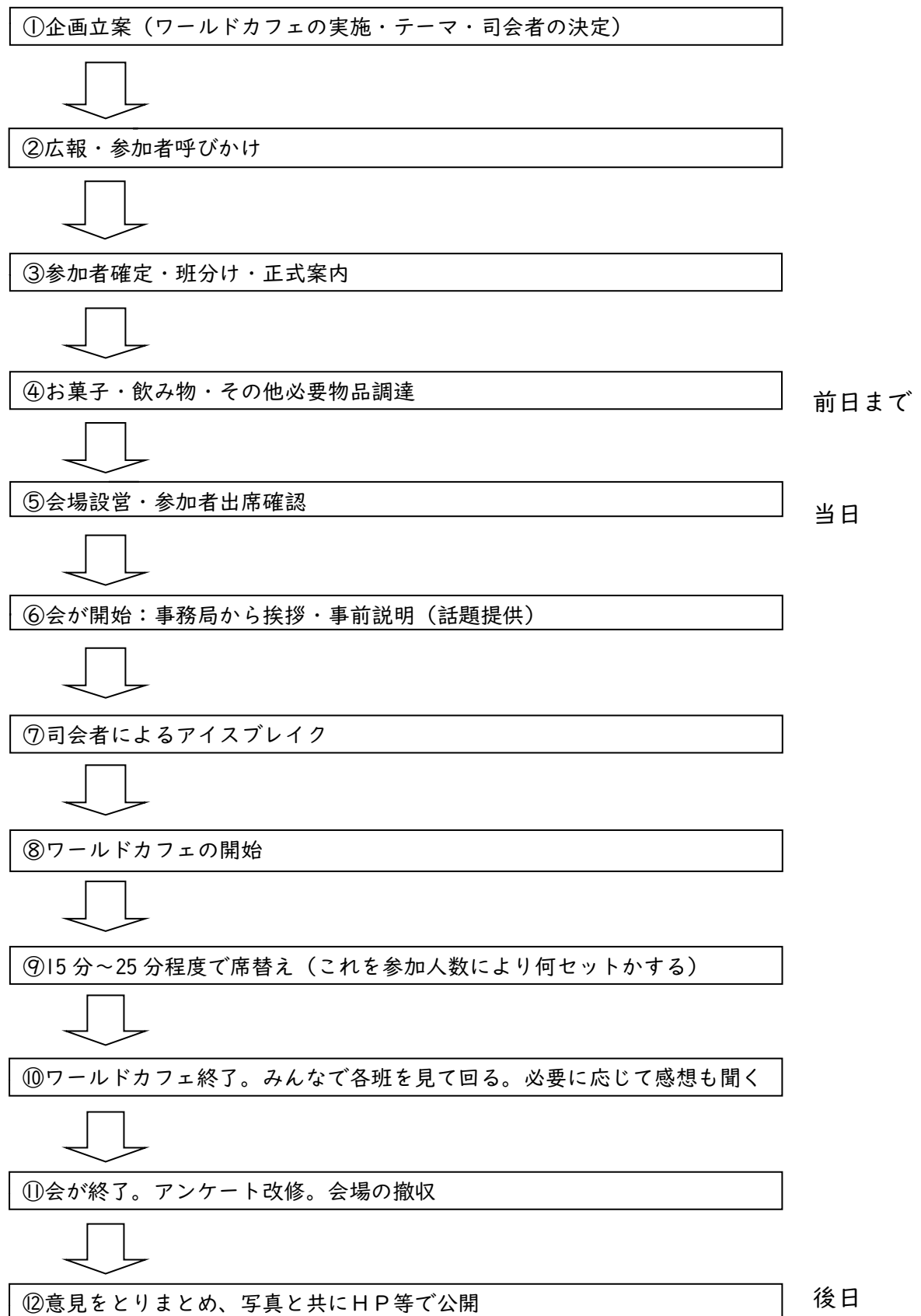
参加者は積極的に発言をすることが望ましいですが、自分だけがずっと喋っているということではいけません。また、人の話を遮ったり、強く反論したりするのはやめましょう。みんなが気軽に発言ができる場づくりに協力することが大切です。

2. 5 ホストの役割

各班に1、2人ホストをつけます。ホストは班の中での進行役として、人に話を振ったり、場合によっては、話しすぎている人を制したりする必要もあります。話ができている人がいたら、話を振ったり、相槌を打ったり、根気よく話を聞いて輪に入るのを促しましょう。

第6期みんなでまちづくり推進会議では、ホストを委員1人と大学生1人という形で実施しました。今回、高校生という若い世代の参加者、移住者という地元を離れた参加者が相手ということもあり、どちらにも立場に近い大学生はうまく間に入り、班の中の会話を弾ませてくれました。

3. ワールドカフェの流れ



4. 模擬審査会について

最後に、「模擬審査会」についても触れておきます。

ワールドカフェは意見を引き出すことに特化しているので、反論することはしません。しかしながら、意見を戦わせるのではなく、違うものの見方ができることを提供することにも必要な場合があります。第6期みんなでまちづくり推進会議では、高校生を相手にワールドカフェをした翌年に「こんなイケン？」と題して、大人の異見を高校生に審査してもらう模擬審査会を実施しました。

模擬審査会には決まった形があるわけではないので、ここでは、第6期みんなでまちづくり推進会議で実施した内容を記載します。

まず、事前に決めたテーマについて、大人が5分ほどプレゼンテーションを行い、それについて、高校生が採点用紙に点数を記入するという形にしました。テーマは、昨年実施したワールドカフェで特に多かったマイナスな意見を取り上げました（P 4 参照）。採点形式は以下のとおりです。

5：共感できる	4：まあ共感できる	3：普通
2：あまり共感できない	1：共感できない	

ここでは「共感」という言葉を使い、対決姿勢とならないよう工夫しました。採点用紙にはコメントも記入できるようにし、高校生がどのような評価をしたか後で確認できるようにしました。プレゼンテーション後は、何人からか感想も聞き、終了後は、ワールドカフェを実施し、意見交換しました。

アンケートは、実施前と実施後の2回行い、意識の変化を確認しました。実施後のアンケートでは「今回の意見を聞いて、改めて地元の良さを見直す良いきっかけになりました。」「見方を変えることが重要だと思った。」「行政や他の人が作った地元・町を本当に誇れるのか、という点を聞いて、積極的にまちづくりに関わっていくべきだと思いました。」といった意見がありました。

